

|   |   |                 |
|---|---|-----------------|
| 科目名 看護過程展開実習<br>時間割表記名 看護過程展開実習   | 配当時期 2年次6月<br>単位数 2単位<br>時間数 60時間(10日間) | 講義担当者<br>高木 佳寿美 |
| 事前学習内容<br>実習要項に準ずる  |   |                 |
| 科目全体のねらい・授業目標<br>【実習目的】<br>看護の対象である人間を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践の基盤となる能力を獲得できる。<br>【実習目標】<br>1. 受け持ち患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。<br>2. 受け持ち患者の看護問題を明らかにすることができる。<br>3. 受け持ち患者の日常生活援助を安全に実施できる。<br>4. 実施した看護の評価・考察ができる。<br>5. 受け持ち患者との人間関係を構築することができる。<br>6. 看護実践を通して、実施した看護の意味づけができる。<br>7. 保健・医療チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。                         |   |                 |
| DPとの関連<br>DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。<br>DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。<br>DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。<br>DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。<br>DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。<br>DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。 |   |                 |
| 授業の流れ<br>本実習では、ロイ適応看護モデルを用いて看護診断過程を学習する。患者を受け持ち、4つの適応様式に沿って行動のデータを収集し、行動のアセスメントを行う。そして、看護診断を確定するために必要な情報を追加しながら、関連因子、危険因子を特定し、看護診断を確定する。個別性に応じた看護計画を立案し、受け持ち患者の看護を実践する中で看護診断過程を学ぶ。<br>本実習は、臨地実習8日間、学内実習2日間とする。  |   |                 |
| 評価<br>ルーブリックに沿って評価する。   |   |                 |
| 使用するテキスト<br>①系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院<br>②系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院<br>③ロイ適応看護理論の理解と実践 医学書院<br>④ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院   |   |                 |

⑤看護過程に沿った対症看護 学研

⑥看護診断ハンドブック 医学書院

その他、看護実践に必要なテキスト

参考文献